

(平成18年9月分)

部 門	市況の概要
野 菜	<p>9月期の野菜の市況については、全国的な春先からの天候不順が依然として響き、品目によっては、生育の遅れが見られたことから、入荷は非常に不安定な状況であった。しかし、9月の雨により生育の好転した品目もあり、結果としては、前年同期を4%上回った。</p> <p>価格は、入荷増ではあったものの、入荷の不安定な要因から前年同期を6%上回る結果となった。</p> <p>品目別には、キャベツ、ピーマン、まつたけが入荷減の単価高で推移し、長大根、レタスは入荷増の単価安で推移した。西洋にんじん、はくさい、きゅうり、トマトは、入荷増ながら単価高となった。たまねぎ、ほうれん草は、入荷量・価格ともに前年並みとなった。</p> <p>根菜類は、入荷が18%増加し、価格は3%高となった。 葉菜類は、入荷が前年並みで、価格は11%高となった。 果菜類は、入荷が7%増加し、価格は13%高となった。 土物類は、入荷が5%減少し、価格は前年並みとなった。</p>
果 実	<p>9月期の果実の市況については、全国的な天候不順から作柄が悪く、小玉果や下級品等の発生が目立ったことから、全体としては、前年同期を13%下回った。</p> <p>価格は、入荷減から前年同期を14%上回った。</p> <p>柑橘類は、入荷が25%減少し、価格は16%高となった。 りんごは、入荷が4%減少し、価格は前年並みとなった。 梨類は、入荷が23%減少し、価格は29%高となった。 柿は、入荷が35%減少し、価格は17%高となった。 ぶどうは、入荷量、価格ともに前年並みとなった。 メロンは、入荷が5%増加し、価格は3%高となった。</p>

主要品目（野菜）	市況の概況
【根菜類】	
長大根	<p>北海道を主力に青森からの入荷。全般的に順調な入荷となり、結果として入荷量は、前年同期を25%上回った。 価格は、入荷増から前年同期を4%下回った。</p>
洋人参	<p>北海道を中心とする入荷。小玉傾向ではあったが、順調な入荷となり、結果として、前年同期を5%上回った。 価格は、入荷増ながら好調な販売となり、結果として、前年同期を19%上回った。</p>
【葉菜類】	
はくさい	<p>長野を中心に北海道からの入荷。各産地ともに上旬までは、7月の集中豪雨と8月の高温・早魃の影響から、生育が遅れていたが、中旬以降は生育の回復とともに順調な入荷となった。結果として前年同期を3%上回った。 価格は、中旬までは入荷が不安定であったことから、高値で推移し、順調に入荷した後半は下げ市況であったが、結果として、前年同期を44%上回った。</p>
キャベツ	<p>長野、群馬を主力に北海道からの入荷。各産地ともに7月以降の天候不順の影響を受け、生育・作柄ともに悪く小玉傾向となり、結果として前年同期を10%下回った。 価格は、先月から継続して品薄であったことから、高値推移が続いており、結果として、前年同期を38%上回った。</p>
ほうれんそう	<p>岐阜を主力に茨城、北海道、滋賀からの入荷。各産地ともに、7月以降の天候不順の影響を受けていたが、今月になって回復してきたため、結果として、入荷量は前年並みとなった。 価格は、入荷量と同様に前年並みとなった。</p>
レタス	<p>長野を主力に北海道からの入荷。各産地ともに上旬は、7月以降の厳しい気象条件の影響を受け、生育・作柄ともに悪かったが、中旬以降は急激な回復となったため、結果として、入荷量は前年同期を7%上回った。 価格は、入荷量の増加により、前年同期を12%下回った。</p>

<p>【果菜類】 きゅうり</p>	<p>北海道，福島，京都，福岡を中心とする入荷。7月以降の天候不順の影響から前半は入荷量が不安定であったが，中旬以降に回復し，結果として，入荷量は前年同期を4%上回った。 価格は，入荷増ながら，野菜全般の高値基調から前年同期を7%上回った。</p>
<p>なす</p>	<p>京都を主力に徳島，高知を中心とする入荷。7月の長雨とその後の早魃・高温の影響を受け，花落ちの発生などがあったものの，結果として，入荷量は前年並みとなった。 価格は，特売需要に支えられ，前年同期を7%上回った。</p>
<p>トマト</p>	<p>北海道，岐阜，茨城を中心とする入荷。夏秋産地の出荷の伸びが悪い中，本市場においては，早期契約による取引により集荷が出来たため，結果として，入荷量は前年同期を8%上回った。 価格は，関西全般の品薄と好天候という販売環境に恵まれ，入荷増ながら前年同期を19%上回った。</p>
<p>ピーマン</p>	<p>大分，茨城，福島，兵庫を中心とする入荷。各産地ともに7月以降の天候不順から着花不良など作柄が悪く，入荷量は前年同期を7%下回った。 価格は，入荷減から期間を通して高値推移となり，前年同期を42%上回った。</p>
<p>【土物類】 ばれいしょ (メーク含む)</p>	<p>北海道，青森を中心とする入荷。各産地ともに，作柄が悪く小玉傾向であったため，入荷量は前年同期を4%下回った。 価格は，入荷減ながら小玉傾向のために前年同期を4%下回った。</p>
<p>たまねぎ</p>	<p>北海道を中心に兵庫からの入荷。兵庫産は終盤になり減少しており，北海道は，やや小玉傾向ではあったが，入荷量は，前年並みを確保できた。 価格は，小玉傾向で品質も心配されたが，前年並みとなった。</p>
<p>【菌茸類】 まつたけ</p>	<p>中国，北朝鮮を中心とする入荷。中国の早魃の影響から入荷が少なく，昨年豊作であった北朝鮮も少なかった。また，韓国産も国内需要期も重なり入荷が少なく，結果として，入荷量は前年同期を66%下回った。 価格は，入荷量の激減から高騰が続き，前年同期を162%上回った。</p>

主要品目（果実）	市況の概況
極早生みかん	<p>和歌山，福岡，宮崎，愛媛からの入荷。各産地ともに開花期の低温により生育に遅れが生じたことと，本年が裏年になることから，入荷量は，前年同期を26%下回った。</p> <p>価格は，入荷減に加えて，小玉傾向ながら酸切れがよく，前年同期を25%上回った。</p>
つがる （サン含む）	<p>青森，長野を中心とする入荷。小玉傾向ながら着果量が多く，入荷量は前年並みとなった。</p> <p>価格は，着色不良の下位等級が多く，前年同期を3%下回った。</p>
豊 水	<p>富山，長野，徳島，鳥取を中心とする入荷。各産地ともに日照不足・曇天の影響から小玉傾向となり，結果として，入荷量は前年同期を16%下回った。</p> <p>価格は，入荷量が減少したことによって，結果的に前年同期を30%上回った。</p>
二十世紀	<p>鳥取，長野，京都を中心とする入荷。各産地ともに日照不足・曇天の影響から小玉傾向となり，結果的に，前年同期を21%下回った。</p> <p>価格は，入荷減から前年同期を21%上回った。</p>
刀根柿	<p>和歌山を中心とする入荷。昨年は，豊作年であったが本年は着色の遅れにより出荷が遅れたため，入荷量は，前年同期を24%下回った。</p> <p>価格は，入荷減により，前年同期を15%上回った。</p>
巨 峰	<p>長野，山梨を中心とする入荷。各産地ともに，赤熟房の発生など下級品が多く出荷量が少なくなったため，入荷量は前年同期を5%下回った。</p> <p>価格は，入荷量が少なかったものの，前年並みとなった。</p>
アールスメロン	<p>静岡，茨城を中心に長野，石川，愛知からの入荷。主力の2県が減少しつつある中，後続産地からの順調な入荷により，入荷量は前年並みとなった。</p> <p>価格は，業務需要に支えられ，前年同期を10%上回った。</p>

くり	<p>愛媛，京都，島根を中心とする入荷。昨年は大玉傾向で，入荷量，価格ともに良好であったが，本年は，小玉傾向から入荷が少なく，結果として，前年同期を10%下回った。</p> <p>価格は，入荷減ながら，小玉傾向によって前年同期を7%下回った。</p>
----	---